

サロンマップ ～地域活動へつなげる取り組み～

岐阜県・郡上市健康福祉部健康課保健師（前・県北西部地域医療センター国保白鳥病院）

河合志織

はじめに

県北西部地域医療センター国保白鳥病院（以下、白鳥病院）がある郡上市は、岐阜県のほぼ中央に位置し、面積は1,030.75km²の山間地域である。また、長良川の源流域を形成する森林地帯が市全域の90%を占め、長良川、和良川、石徹白川など24本の一級河川が流れる水と緑に恵まれた地域でもある。平成16年3月1日に八幡町、大和町、白鳥町、高鷲町、美並村、明宝村、和良村の7か町村が合併し、郡上市が誕生した。令和6年3月31日時点での人口は3万8,058人、高齢化率は38%である。

取り組みを行う白鳥病院は郡上市の北部白鳥町にある46床の病院である（図1）。「地域に住むすべての人がその人らしく健康で幸せに暮らせるお手伝いをします（For Your Healthy and Happy Life）」を基本理念とし、内科、小児科等の医療のほかに在宅介護支援センターや訪問看護ステーション、通所リハビリ、健診等を一体的に提供する地域包括ケアを推進し、郡上市北部地域（高鷲町、白鳥町、大和町）における中核的な医療機関となっている。

私が所属していた地域連携室は、医師2名（兼任）、看護職（看護師、保健師）3名（兼任2名）、医療ソーシャルワーカー1名、医療事務1名（兼任）で構成される。この計7名で保健医療福祉相談や出前健康講座の実施、入退院支援、介護・福祉機関との連絡調整など、大きく分けると地域との連携、医療機関との連携、介護福祉機関との連携の3つの業務に取り組む。これらの取り組みのうち本稿では、地域活

図1 郡上市北部地域と白鳥病院の位置図



動へつなげる取り組みであるサロンマップについて報告する。

取り組みの背景

白鳥病院の特徴として46床すべてが地域包括ケア病床、1病棟からなることがあげられる。地域包括ケア病棟には急性期治療後も入院治療が必要な患者の受け入れ（ポスト・アキュート）、在宅療養中急性増悪した患者の受け入れ（サブ・アキュート）、在宅復帰支援の3つの機能がある。白鳥病院は在宅療養中に急性増悪した患者の受け入れが多く、在宅療養中に介護保険サービスを利用していた患者も多い。そのため、退院支援では患者に関わる介護支援専門員や介護福祉サービス事業所とも連携しながら利用する介護保険サービスを相談し決めていくケースが多い現状にあった。

しかし、入院患者全員が介護保険の対象になる方ばかりではない。ADLは自立しており、退院後の

図2 高鷲町のサロンマップ

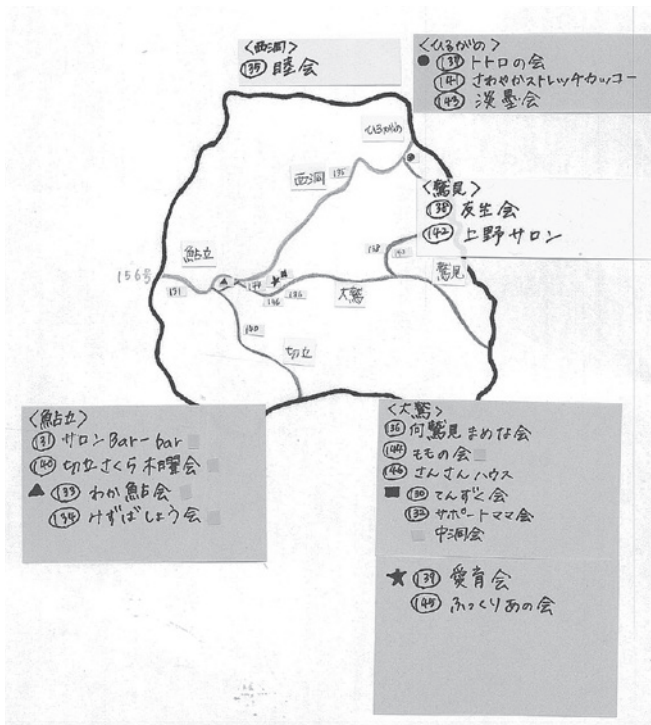


図3 白鳥町のサロンマップ



生活に介助を必要としないが退院後活動を促していきたいケースもあるが、患者にリハビリ職員から自宅で行う体操を伝えることはあっても、地域の集まりを紹介するなどして活動を促すことはできていなかった。そこで高齢者の外出頻度の増加、社会的交流活性化などのため地域のサロン活動を紹介できる体制づくり、ヘルスプロモーション活動を含めた、地域とのつながりを構築するため郡上市北部地域のサロンマップを作成した。

サロンマップ

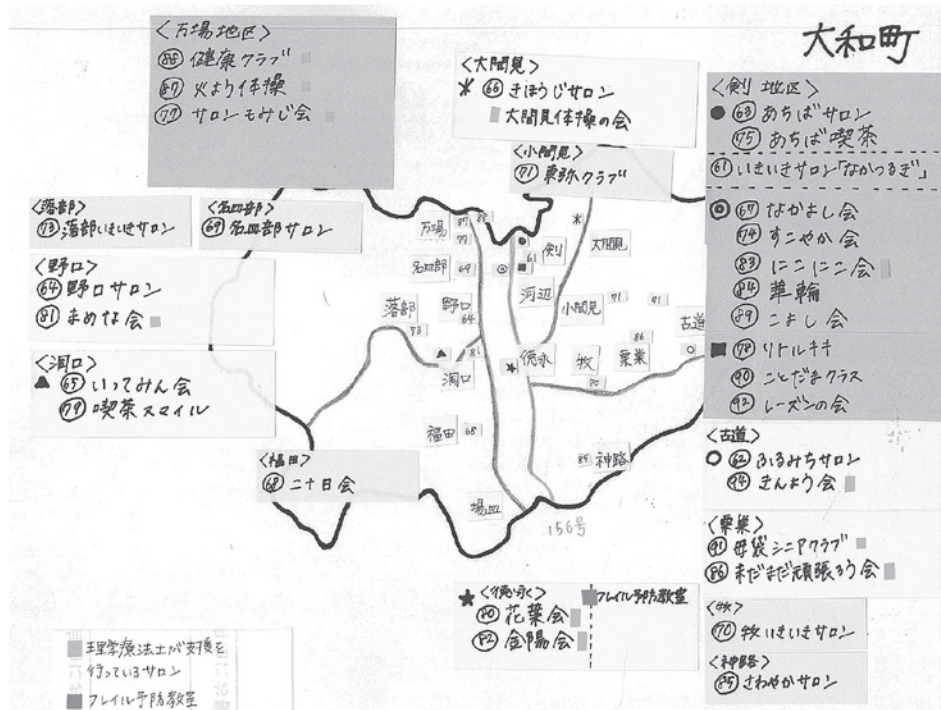
「サロンマップ」とは、地域のサロンをまとめた地図を意味するが、その内容は郡上市北部地域にあるサロン活動だけでなく、公民館や集会所で実施する活動も含まれる。市の社会福祉協議会から市北部地域にあるサロン活動を、市地域包括支援センターへ公民館や集会所で実施する通いの場活動を情報収集した。すると市北部地域にあるサロンや通いの場の総数は80か所あることがわかった。そして、収集した情報をもとに、サロン代表者より参加許可を得た9か所のサロンを訪問した。

実際に訪問することで、開催場所や参加人数、年代、具体的な活動内容などを知ることができた。また、参加者が和気あいあいと楽しそうに活動している様子を見ることができた。それまで私はサロン活動というと、高齢者が公民館や集会所で体操や茶話会をしている印象があったが、情報収集やサロン訪問を通して、サロン活動への印象が変わった。

まず、地域活動の対象者は高齢者に限らず、障がい者、子ども、誰でも参加可能としている所もあった。そして、活動内容を体操としているサロンは多くあるが、棒やボールなど道具を使用しているサロンもあれば、CDを流して体操を実施している所、体操の指導者が参加者へ体操を教えている所など、さまざまであった。体操以外にも歌唱や小物作り、レクリエーションと活動内容の種類も私が想像していた以上に多くあった。

情報収集のためサロンを訪問し、サロンマップを作成した(図2～4)。各地域のサロンの総数は、

図4 大和町のサロンマップ



高鷲町で16か所、白鳥町32か所、大和町32か所であった。サロンの対象者内訳は、高鷲町は高齢者11か所、障がい者2か所、子育て6か所、誰でもよい1か所。白鳥町は高齢者29か所、障がい者6か所、子育て2か所、子ども1か所、一般2か所。大和町は高齢者25か所、障がい者3か所、子育て4か所、誰でもよい4か所である。なお、サロンの総数と対象者内訳の合計が異なるのは、1つのサロンが高齢者と障がい者というように対象者を2つ以上としている場合があるからである。

サロンマップを作成するにあたりどこの地域で、どんな地域活動（サロン活動、公民館や集会所で実施する活動含む）があるか地図上でわかるようまとめた。1つの公民館でいくつかの地域活動が行われている場合もあるので、記号（●、▲、■など）を用いて誰でも理解しやすいサロンマップになるよう努めた。さらに理学療法士が支援を行っているサロンや、市が開催するフレイル予防教室は区別がつけられるようオレンジ色やピンク色で目印をつけている。また、サロン訪問で把握した開催場所や参加人数、年代、活動内容などの情報をまとめ、患者へ地

図5 サロン情報のまとめ（一部抜粋）

No.	98
名称	うたごえサロン
対象者	高齢者
対象地域	地域の制限なし
開催場所	
開催日時	第2火曜日 10:00~11:30
参加費	200円
参加人数	15人(男性:0人 女性:15人)全員で35人程度
年代	60~80代
対象者	ハイブ療子、黒組、黒板、フロンティア、黒板(黒)
駐車場	あり
内容	茶話会 歌唱活動 10:00~ 歌(前半) 10:45~ 茶話会 11:00~ 歌(後半)
その他	・会場までは車で来ている人、徒歩の人がいる。 ・サロンを初めて約5年経過し、メンバーは入れ替わっており約100人程。 ・前は夫婦で来ている方も見えたが、今は女性のみ。 ・白鳥だけでなく、大和、八幡からも参加している。 ・メンバー全員の連絡先を代表者は把握しておらず、サロンの開催のお知らせにはお知らせとして提示している。 ・歌集が3冊あり、前半と後半で1冊ずつ使い歌っている。 ・歌集には、日本の歌や童謡、唱歌、世界の歌、フォークソング、歌謡曲など様々な種類の歌がある。 ・1人ずつ好きな曲を選んで、前半・後半で約10曲ずつ歌う。 ・知っている曲だけ歌うのもよい、歌を聞きに来るだけでもよいと代表者が話していた。

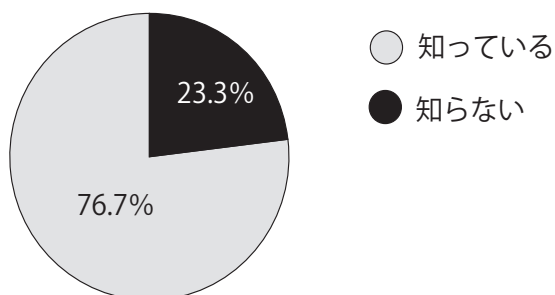
域活動の詳しい内容を紹介できるように工夫した(図5)。

まとめ・今後の課題

今回の取り組みで、市北部地域全域のサロンマップを作成した。作成後は活動を促したい方やサロンに参加したい方へ向けて紹介できる体制の構築をし

図6 アンケート調査結果

③：地域連携室に「サロンマップ」があることを知っていますか？
73 件の回答



ていくために、作成したサロンマップをもとに白鳥病院職員へサロン周知を行った。全職員 150 名へサロン周知を行う前後で、Google フォームを用いたアンケート調査を実施した。アンケート内容には、「各地域で行っている地域活動サロンとは何か知っていますか」「地域連携室にサロンマップがあることを知っていますか」など計 7 つの質問をいれた。

サロン周知前のアンケートには 61 名が回答した。アンケート結果では、「各地域で行っている地域活動サロンとは何か知っていますか」の質問に「知っている」と回答したのは 55.7%。「地域連携室にサロンマップがあることを知っていますか」の質問に「知っている」と回答したのは 18%であった。アンケートに回答した職員のうち半数ほどしかサロンを知っておらず、また職員の 8 割以上がサロンマップを知らないことがわかった。

1 回目のアンケート実施後、職員に対し地域連携室でサロンマップ作成の取り組みを実施していることや、その目的をメールにて説明した。そしてサロンマップを職員へ回覧し、その後 1 回目と同様の内

容で再度アンケート調査を実施した。

2 回目のアンケートでは 73 名が回答した。「各地域で行っている地域活動サロンとは何か知っていますか」の質問に「知っている」と回答したのは 76.7%で、1 回目より割合が増加した。「地域連携室にサロンマップがあることを知っているか」の質問に「知っている」と回答したのは 76.7%と 50%以上割合が増加した（図 6）。全職員にアンケート調査ができていないが、職員に対しサロンマップ含めサロンについて周知できたのではないかと考える。

地域活動を紹介できる体制を構築するため、職員へサロンの周知を行った。今後はより体制を整えるため、患者に地域活動を紹介してから実際に患者が地域活動に参加するまでどのような方法でつなげるかが課題である。なお、当センターではサロンから依頼を受けての出前健康講座の実施、多施設多職種チームでの地域ヘルスプロモーション活動（通称センタープロジェクト）にて、実際に各地域のサロンへの職員の参加事例も複数あり、サロンマップから当センターの地域連携の活動が広がっている。